

## < 巻頭言 >

# すべては 子どもたちのために

更埴教育会長 田中 寿一

33歳の時、長男が入学しました。

担任の先生がきまるとき、

「根の優しい先生であってほしい、

子どもの気持ちがわかる先生であってほしい、

子どものために勉強してくれる先生であってほしい」

と祈りました。

それは、同僚としての教師観ではなくて、我が子に対する親心の必死の叫びだったと思います。

そのときから、子どもの人生の大事な時を預かる我が身のふがいなさを思うようになりました。

子どもを畏敬し、子どもの背後にある親の願いをくみ取りたいと今頃になってそう思うのです。

自分のクラスの子のことを考えれば、勉強したいことが山ほどある。

「このA子は、何を考えているのだろう」

と思うと、

『生理学』『性格学』『行動学』『人間生理学』『人間学』など、自ずと求めたくなる。

「このS男を、どう指導したらよいのだろう」

と悩みはじめると、

『生徒指導の原理』『発達心理学』『指導技術』『授業研究』などの探究をしたくなる。

わがまま娘のK子に悩み苦しむと、

「わがままな子」⇒「自我」⇒「人間の意識の構造」⇒「脳と性格」

など、勉強したい衝動に駆られる。

子どもの前に立つことの“畏れ”を忘れず、出会った子どもたちのために、  
「教師としての力量を高めたい」（専門性）

「人としての自分を磨きたい」（哲学）

と、子どもの前に立つ師として謙虚に学び続けようとしている先生方の集まりが、更埴教育会だと思っています。

“教育は人なり”

新型コロナウイルスに負けず、更埴教育会で、先生方と大いに学び合いたいです。